比和科学博物館研究報告 , (41): 53–67, 10 pls.
大平仁夫 , 2003. 日本産サビキコリ属の形態について (II) . (甲虫目：コメツキムシ科，サビキコリ亜科 , ホソサビキコリ属)．比和科学博物館研究報告 , (42): 31–43, 7 pls.

(2011 年 10 月 18 日受領，2011 年 11 月 17 日受理)

## 書評

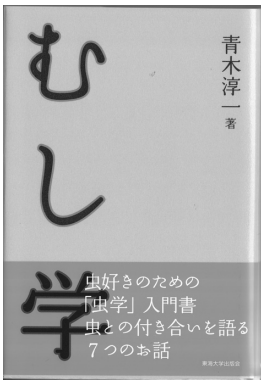
**青木淳一 （著）**
**「むし学」**
**東海大学出版会**
**2011 年 9 月 20 日発行 210 pp. 2,800 円**

2009 年に東海大学出版会から発行された「ホソカタムシの誘惑 ― 日本産ホソカタムシ全種の図説 ―」で，日本中の甲虫屋を唸らせた青木淳一さんによって本年 9 月に同出版会から「むし学」の著書が上梓された．この著書は「まえがき」に書かれているように「むし」といっても昆虫だけを対象としているのではなく，同じ節足動物門に含まれるクモ，ダニ，ワラジムシ，ダンゴムシ，ムカデおよびヤスデなど，昔から「むし」と呼ばれてきた身近な生き物が含まれている．

まず，巻頭の美しいカラー印刷による 1 から 16 の口絵を通して多様な虫達を紹介することで，読者の関心を引き付け，続いて第 1 章から第 7 章にわたる本文で，これらの虫達との付き合い方が多岐にわたって記述されている．それらの内容を紹介すれば，下記の通りである．

第 1 章　虫入門，第 2 章　虫の生態，第 3 章　人間と虫，第 4 章　昆虫採集，第 5 章　虫学者になるための心得，第 6 章　虫学者列伝，第 7 章　海外虫紀行．

上記の第 1 章では，虫に関する名前や形態に関する最も基礎的な事柄が解説されている．この中で，以前は虫の名が漢字でも表記されていたが，それにちなんで出題された「34 の漢字名テスト」はなかなかの難問で，著者の遊び心が感じられる．私もかつて「豆娘」と記された虫の名前が，思いもよらない虫と知り驚いたことを思い出した．第 3 章は，虫の生態に関して大変わかりやすい解説で読者の興味心をかき立たせるのに十分な内容となっている．第 3 章以降は，前章までの解説的内容ばかりでなく，多分にエッセイ的な味付けがなされた構成で，第 3 章では従来あまり関心が持たれてこなかった都会に生息している虫達を紹介すると共に，ヒートアイランド現象との関連性を指摘している．第 4 章の昆虫採集と標本の作り方では，懇切丁寧な説明が初心者にとってはたいへん有益な指針となっている．なお，この章の「子供の虫採り」の項で，子供の昆虫採集に否定的な社会の風潮に対してこれを強く批判している姿勢に著者の強い思い入れが感じられる．第 5 章では，虫学者になるための条件や研究方法について著者の考えが記述され，学会や同好会への加入を勧めると共に，全国的な学会と地域の研究会・同好会および発行機関紙が紹介され，著者らしい細やかな心配りがなされている．第 6 章および第 7 章は，著者の楽しく懐かしい思い出を記述しており，第 6 章では親しく交友された 11 人の物故虫学者の主な業績と共に，これまで知られていないエピソードなどを交えながら，それぞれの人となりを伝える楽しい読物となっている．第 7 章では，ハワイのビショップ博物館での研究生活が紹介され，また，アジアの 5 地域（ボルネオ・台湾・中国雲南・タイ・ニューギニア）での採集紀行が楽しく記述されている．これら虫屋達の垂涎の地域での採集活動や，それに伴って観察された様々な虫達の行動や生態が魅力的に書かれ，読者の胸をときめかせるのに十分である．




以上が，この著書の内容であるが，著者の肩肘張らない平明な文章は楽しみながら読み進めることができ，特に第 1 章から第 4 章までの内容は，これから虫の世界を探求しようとする人ばかりでなく，これまで虫と不縁だった人達にも虫の世界に関心を抱かせるような入門書として啓蒙的な役割を果たしている．このため，これらの人達にもぜひ一読を薦めたい．

（東京都町田市　渡辺泰明）